

# 硬式球修繕 障害者の就労支援へ

縫い目がほつれた野球ボールを修繕してもらうことで障害者の就労を支援する「エコボール」事業が先月末から津山市内で始まった。美作地区7高校の野球部の傷んだ硬式球を、就労継続支援事業所5施設の利

用者が練習球として使えるように再生。高校生は道具の大切さを再認識し、両者の交流も図れる新しい就労モデルとして広がりが期待される。

## 5 津山市内 施設 利用者取り組む

### 美作地区7高野球部使用

#### 「エコボール」事業

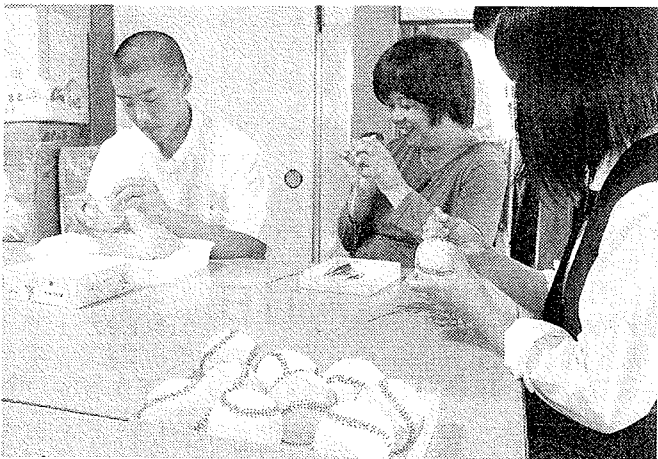
## 新モデル 期待される広がり

プロ野球近鉄などで投手として活躍した福井保夫さん(62)は奈良県安堵町に今年2月に母校津山商高野球部の非常勤コーチに就任後、市や学校に呼びかけて実現。この事業は平成21年、京都府のNPO法人「就労ネットうじ みつくすはあつ」と元プロ野球大洋(現DeNA)の投手で現在はコンサルティング会社を経営する大門和彦さん(50)が提唱し、各地で取り組みが始められている。

4日は津山しらうめの会共同作業所(椿高下)で、通所者と一緒に津山商高の野球部員4人が作業。赤い糸で一針一針丁寧に縫っていった。

「糸を交差しながら

## 練習球として再生



一緒に作業する津山商高野球部員と施設利用者

縫っていくところが楽しい。頑張ってほしいと心を込めて縫っている」と利用者の入口美紀さん(38)。1年の池田陸捕手は「根気のいる大変な作業。大切に扱い、一層練習を頑張りたい」。福井さんは「これをきっかけに交流が進み、いろんな意味で高校生の人生勉強になれば」と笑顔。

修繕には1球につき50円が学校から支払われ、全額が作業をした人の報酬になる。指導員は「手を動かす運動になり、やりがいい。達成感が味わえるいい取り組み。仕事が少ない障害者の就労支援へ目を向けてもらってありがたい」と話していた。

同部OB会長でスポーツ店を営む治郎丸真介さん(61)は、各高校町勝間田には、各高校からボールを集めて事業所に配る役目を引き受け、今回1球につき30円の糸代も寄付した。